

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【総合政策研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 1 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 現行カリキュラムの問題点を明確にしたうえで、教育理念の実現に向けたカリキュラム改訂への取り組みが目標として具体的に掲げられています。（評価者 A）
「具体的でない」 2 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 教育研究目標の「多様な分野の知識に基づく」と、目指す姿の「それぞれが必要とする専門的な知識」との関連が具体的に示されていません。（評価者 B） ・ 知識と分析力が、現状に比較して何をどのようによどの程度獲得するように改善するのかという点が明確になることが期待されます。（評価者 C）
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 研究科の独自性である「リサーチプロジェクト」を充実させる方向でカリキュラムの改訂に取り組むことは、研究科の教育目的を果たすうえで有効です。（評価者 A） ・ 設定された 6 年後のめざす姿（目標）は妥当な内容です。（評価者 B） ・ 部局の特徴を伸長させる取組であると思われます。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当です。（評価者 A） ・ 設定された評価指標が 4 つある。それらを統合した指標を示して欲しい。（評価者 B） ・ 妥当（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切です。（評価者 A） ・ スケジュール設定は適切。（評価者 B） ・ 検証・改善という過程があった方が良いのではないかと思います。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 実務上の専門技術の獲得という目標の達成に向けた取り組みが具体的に示されています。（評価者A） ・ 具体的な内容です（評価者B） ・ 2つのコースは、実社会と直結するため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点： ・ なお、総政全体として、専門的技術は上の二つに限られないと思われ、この点をどうするのか今後の取組を期待します。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 具体的なコースとプログラムの実施を通して実務において必要とされる技術の教育・獲得を目指すことは、研究科の特性を活かすうえで有効な取り組みです。（評価者A） ・ 設定された6年後のめざす姿（目標）の内容として、「国連・外交コース」と「建築士」に関するプログラムの2つが示されている。それら2つを、「実務上の専門的技術の獲得」という教育研究目標2のもとで掲げているが、別々に設定して行動計画を立てたほうが評価しやすい。（評価者B） ・ 部局の特長を伸長させる内容となっています。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 4つの評価指標が設定されている。数量的は指標なので同じ尺度で測ることができるが、単一の評価指標を設定して欲しい。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 適切（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ 高度なコミュニケーション能力の獲得が目標として明確かつ適切に提示されています。（評価者A） ・ 具体的に示されている。（評価者B） ・ 指標と併せれば、目標達成に十分具体性はあると思われます。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ これまで実施してきた「ドーナツタワー」と「リサーチ・コンソーシアム／リサーチ・フェア」をさらに充実化されることで、大学院生における英語でのコミュニケーション能力の獲得を目指すことは、研究科の独自性に照らして適切な取り組みです。（評価者A） ・ 設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、意欲的な取り組みで、妥当である。（評価者B） ・ 部局の特長を伸長させる内容となっています。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 妥当です。（評価者A） ・ 設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者B） ・ 成果を一部反映すると思われますが、全てこれでカバーされるとは限られないと思われます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 適切（評価者C）

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 0名	左記を選択した理由：
「具体的でない」 3名	左記を選択した理由： <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に資する研究を実施／実現するうえでの具体的な方策が、より適切かつ具体的に示されることが求められます。（評価者A） ・ 「目指す姿」に複数の事項があり、そのうちの定員の適正化と「社会に資する研究等の実施」という目標との関連が具体的でなく、不明です。（評価者B） ・ 定員見直しは、必ずしも研究成果を社会に還元することには直結しないと思われます。（評価者C）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に資する研究を目指すことは研究科の独自性を活かすうえで有益ですが、その実現のためのより具体的で実行可能な方法を提示することが求められます。（評価者A） ・ 設定された6年後のめざす姿のうち、定員の適正化（削減）は、行動計画の3つめにあるカリキュラム改訂とどのように関連するのか不明であり、「社会に資する研究等の実施」という目標との関連が不明です。（評価者B） ・ 客観的にみて妥当な取組です。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会への貢献度」をより具体的な指標のもとに示すことが望まれます。（評価者A） ・ 設定された評価指標のうち、定員の適正化の意味が不明ですが、他の指標は妥当です。（評価者B） ・ 妥当（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切です。（評価者A） ・ スケジュール設定は適切です。（評価者B） ・ 適切（評価者C）